

平成25年度第2回安城市市民協働推進会議 議事概要

日 時：平成25年8月30日（金）午前10時00分から

場 所：安城市役所本庁舎3階第10会議室

<委員出席者> 11名

【会長】 加藤 勝美（公共的団体）

【委員】 大参 斌 （公共的団体）

新 禮輔（公共的団体）

山内 正幸（企業）

北村 新子（市民団体）

草薙 玲子（市民団体）

小森 義史（市民団体）

池端 伸二（市民公募）

神谷 美砂（市民公募）

本田 和明（市民公募）

昇 秀樹（学識経験者）

<委員欠席者> 4名

【委員】 山本 智志（公共的団体）

柴田 由美（企業）

大野 裕史（市民団体）

古濱 利枝子（市民団体）

<事務局等出席者> 6名

市民生活部長（中根）

市民協働課長（兵藤）

市民協働課課長補佐（長谷）

市民協働課市民協働係（鈴木、池田）

<次第>

市民憲章唱和

1. あいさつ

2. 議題

（1）市民活動補助金交付事業決定にかかる流れについて

（2）市民協働推進計画の進捗状況について

3. その他

＜配布資料＞

- ・ 次第
- ・ 資料 1 市民活動補助金交付事業決定にかかる流れ
- ・ 資料 2 安城市市民協働推進計画スタートアップ・プログラム
「職員向け市民協働研修」及び「協働のまちづくり人材養成講座」
- ・ 資料 3 安城市市民協働推進計画スタートアップ・プログラム
まちづくり人（びと）養成講座受講者募集について
受講応募用紙

＜議事概要＞

1. 会長あいさつ

もうすぐ9月ですが、今年は異常な暑さと天候です。先日、安城市雨水マスタープランの会議で、昭和62年に聞いたのは、時間雨量50ミリを想定しているとのことでした。50ミリは、10年に1回あるかないかの量とのことでした。それがいまや、年に何十回とあり、100ミリを超える量となることもあります。昨日の集中豪雨での被害も非常に多くあります。また、豊川の方では、ダムに水がなく、干上がってしまい、蒲郡から豊橋の間が節水をしており、プールもできない状態です。幸い矢作ダムにおいては、47%程度残っているので節水等はありません。また、農業用水も使用しない時期に入ってきています。みなさんも大変暑い夏を乗り切っていただいて、涼しい秋まで健康に留意していただきたいと思います。

2. 議題

（1）市民活動補助金交付事業決定にかかる流れについて

【事務局】 資料1に基づき説明

【加藤会長】

ただ今の説明について、ご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

【山内委員】

案2では、委員の中でプレゼン参加者がいれば、その方は審査から除かれますか。

【事務局】

昨年と同様除かせていただきます。

【池端委員】

前回の追加募集で申し込みがなかったそうですが、どのような要因によるものとお考えですか。

【事務局】

申請をされる方は、皆1次募集で応募されたということであろうと思います。ただ、予定した金額に達していないので、制度そのものは、まだ検討の余地があると思います。

【北村委員】

現在ワンコイン講座には、10組程度申し込みがあります。わくわくセンターで話を聞いていると、興味を持って、どうしたら参加できるのかという声もあるので、口コミが大きいと思います。また、こちらもアンテナを張らないといけないと思います。

【草薙委員】

追加は、あくまで追加なので、予定していた人でなく、その場しのぎになってしまうので、計画的に年度の当初に考えている人は1次に応募されると思います。ただ、金額的には少なかったです。

【神谷委員】

追加募集の際、周囲の方に声をかけてみましたが、やはり自信がないとのことでした。また、生涯学習課の補助金事業の方が自分に合っていると言う人もいました。ワンコイン講座で応募が多数あれば、資料1の方が良く分かるのかと思います。

【新委員】

私は、1次審査は事務局でやっていただくのが妥当かと思います。募集の件に関しては、ある程度、来年の計画をしっかりと考える時期に、予告として周知をしないと必要なところに必要な情報がいていないのではないかと思います。できるだけ早い時期にPRをしていただけたらと思います。

【事務局】

PRについては、さまざまな方法でさせていただいていますが、充分でなかった部分もあるかと思うので、今後いろいろな手法を使ってPRに努めていきたいと思っています。

応募と金額が少なかったのは、団体の自己負担が生じるため、そこまでできる団体の方が安城市では少なかったと思われます。申請が比較的容易で補助額が良いという補助金に流れていることもあるかもしれません。

ただ、社会福祉協議会の赤い羽根募金事業がなくなる可能性があるのも、こちらの応募が増えるかもしれません。また、補助率は高ければ良いのですが、自立していただくには、自己負担も必要であると思っておりますので、制度の設計を今後考えていきたいと思っています。また、3月15日の公開プレゼンは、市民協働のPRも兼ねておりますので、そういったさまざまな手法を考えていきたいと思っています。

【池端委員】

市民活動に踏み出しやすいお得な情報を申込書などにつけたらどうかと思います。ワンコイン講座などの情報を載せるなどすると、一歩踏み出せるようになると思います。

【事務局】

情報の出し方については、様々な方法があると思いますので、情報は、出し惜しみせず出していきたいと思っています。また、団体の方の必要とする内容や出し方については、市民交流センターの指定管理者とも協議しながら考えていきたいと思っています。

【山内委員】

2点あります。1点目は、2次募集の件ですが、事業者の立場から、通常、いろいろな年度計画を立てながら、それなりの効果のある活動をしていこうと思うと、年度単位だと思うので、2次募集ということで途中から入るということは、しっかりしたプランであればあるほど難しいと思います。

したがって、1次募集の際にいかに多くの活動を取り込めるかを中心に考えていくという仕組みであるべきだと思います。なるべく2次募集はやらない工夫が必要だと思います。

2点目ですが、案1と案2で提示がされていますが、案1で、1次審査と2次審査に同じ委員が審査するようになっていますが、通常審査を分ける場合は、見方を変えるのが一般的でないかと思います。公平性という点では、関係している人を除外することで保てるのであれば、2次審査は違う方の方がよいかと思います。

【事務局】

1点目についてですが、追加募集の時にいくつかご相談は受けましたけれども、やはり、準備等年度で動かれるので、翌年度の募集で応募するという団体の方もおみえになりました。

2点目ですが、委員の方もいろんな市民活動団体に関わっておられますので、いくらこちらが公正公平であると思っても第三者が見たときにどう捉えるかということもありますので、そういった点も踏まえて審査の方法や委員の選定についてご意見をいただけたらと思っておりましたので、貴重なご意見をありがとうございます。

【小森委員】

新しい制度ですので、1年や2年で定着するのはなかなか難しいと思います。

今年は、2次募集がありましたが、あえて2次募集はしなくてもいいと思います。少しずつ口コミを含めて定着させていく必要があります。1月に募集があるということは、なるべく早く、広く広報する必要があると思います。そうすれば、事前に考えられるので、あらかじめ広く周知して欲しいと思います。

審査の件については、今回の案2は、あらかじめ書類を見せていただくので、私たちは1次審査のときに書類の確認ができますし、事務局審査をしっかりと行っていたらよいと思います。

【事務局】

できるだけ早めに周知していきます。また、さんかく21・安城さんが実施されるワンコイン講座が1つの推進策となります。今回は、申請の仕方が良く分からない、プレゼンが慣れていないというプレッシャーが応募が少なかった要因となりました。そのため、このワンコイン講座を通じてその点をクリアしていきたいと思います。また、来年の周知にもつながりますので、たくさん方にご応募いただけたらと思います。

また、委員の方も口コミで募集のご紹介をしていただけたらと思います。

【加藤会長】

案1だと年度末に会議が多くあり、皆さんにご出席いただくには、非常に心苦しい

のですが。

【事務局】

適切なステップとしては、案1ですが、年度末のお忙しい中ではございますので、皆様でご検討いただけたらと思います。

事務局としては、案1ではみなさまのご負担が大きいのので、今年度は、案2とさせていただき、来年度は、秋ごろから計画をしまして早く取り掛かれるようにしたいと思っております。

【北村委員】

2次審査の公開プレゼンテーションについてですが、どんなものかと思っている方も聞きに来れるということであれば、公開であることをPRする必要があると思います。わくわくセンターでも、他の案内とともにアピールすると良いと思います。要は情報が伝わるかだと思いますので、視覚的に分かるように工夫が必要だと思います。また、去年の分も合わせて、どういったことが対象になるかなど、事例集を積み上げていくと良いと思います。

【事務局】

PRについては、わくわくセンターにおいて、紙媒体やメールマガジンなど、これから様々な媒体を利用するよう研究し、情報発信をしていきたいと思っています。また、事例集については、あんねっとの方で今年度中にまとめて、発表していただきます。また、市民協働推進計画の中でも記載しておりますが、わくわく交流会などの行事と絡めて2次審査をしたり、発表していきたいと思っております。まだ、実現していませんが、将来的に準備を進めていきたいと思っています。

【小森委員】

今回残念なのが、1月の募集の後にわくわく交流会で今年度の補助金報告会があるということです。できれば、募集の締め切り前に実施されるとよいと思います。またそのタイミングも考えるとよいと思います。

【事務局】

今年度は、もう少し早い段階から動く予定でしたが、予算措置上の問題でこういった日程になってしまいました。来年度からはもう少し早く開始し、また時期を合わせて発表会やプレゼンテーションを行うなど考えていきます。

また、3月15日の公開プレゼンテーションは、広報に掲載し、全市民に周知していきます。

【加藤会長】

公開でより多くの人に見ていただくと、来年度応募したい方たちが、やり方の方法が良く分かると思いますので、是非PRをしていただいて、なるべくより多くの方に来ていただけるようにしていただきたいと思います。

【本田委員】

案2ですが、事務局チェックが通り、委員が書類チェックする際にふさわしくないと思ったときの流れはどのようになりますか。

【事務局】

1次審査を事務局が行った後、委員が不適切と思った場合でも、1次審査は通過と

させていただき、それを踏まえて2次審査で委員の皆様で決定していただきたいと思います。書類だけではわからないこともあるかもしれませんので、2次審査で充分チェックした後決定をしたいと思います。

【本田委員】

1次審査は、事務局の審査のみで通過とし、委員はあくまで2次審査で疑問点を伺うという流れでよろしいですね。

【池端委員】

1次審査で落とすというのではなく、どうしたら通過するのか導いてあげることが重要だと思います。

【草薙委員】

1次の書類審査は事務局が行い、委員からは意見・疑問を聞くだけで、点数をつけると言うことでないのであれば、私たちは、事務局が落とした団体については拾い上げられないということになるので疑問です。

【事務局】

1次審査の段階で事務局判断で落とすということは考えておりません。書類不備等の指摘や指導についてはさせていただきます。

【加藤会長】

それでは、案1と2について多数決を取ります。

案1を採用したほうがよいと思われる方は挙手をお願いします。案2を採用したほうがよいと思われる方は挙手をお願いします。

大多数が案2ということで決定しました。

【事務局】

ありがとうございました。それでは、案2とさせていただきます。

また、3月15日の公開プレゼンテーションは一番のPRとなりますので、委員のみなさまもご予定をお願いします。

（２）市民協働推進計画の進捗状況について

【事務局】 資料2・3に基づき説明

【加藤会長】

ただいまのご説明につきましてご質問・ご意見がありましたらお願いいたします。

【草薙委員】

まちづくり人養成講座についてですが、今お手元に配りました私どもの事業のチラシを見てください。私たちは、まちづくり企画人として平成9年から活動しています。まちづくり人とまちづくり企画人と大変紛らわしいので今後考えていただきたいと思います。私たちが安城市内で活動する上で、行政の立場は、私たちにやりやすいようにすることだと思います。

このまちづくり人養成講座を卒業した後どういう名称で活動するのか検討していただきたいという要望です。

【事務局】

名称の件に関しまして、まちづくりという言葉を使うことは問題ないとしても、まちづくり企画人さんと紛らわしいということでしたが、まちづくり人は団体の名称ではないことはご理解いただきたいと思います。

ただ、ご意見をいただきましたので、今後検討していきます。

【昇委員】

市民活動の推進に関する補助金はたくさんあるということなので、一度、横で比較して、それぞれの長所短所を洗い出し、全体の中で市民活動補助金がどういう位置づけなのかを検討していただくと、また改善策が見つかるのかと思います。応募者が少ないというだけでなく、原点に戻って、何を狙いにするか、どれを対象にするかなど一度総合的な調査検討をやられると良いかと思います。

【事務局】

この補助制度を作る際には、他の補助金を調べて検討はいたしました。赤い羽根募金については、補助率が良く、金額も多いため使いやすいというご意見もありましたが、将来的には福祉関係に特化するため、補助金制度は撤退されるということです。また、それ以外にも県の制度などもございますので、調査を行い、ご指摘を踏まえながら検討してまいりたいと思います。

【神谷委員】

まちづくり人養成講座ですが、講座終了時には、修了証書をいただけるのでしょうか。また、その先の続きはあるのでしょうか。

【事務局】

今現在では、発行する予定はありません。なお、この講座は翌年度も続けていく予定です。内容についてもレベルアップした形や新しい方を対象とするなどまちづくりが進むような方法で進めたいと思っております。

【神谷委員】

今後修了者が活動していくのであれば、親しみが持てるような団体名称を考えるとよいかと思います。

【小森委員】

講座をやって終わりでないで、それからどのようにその方たちを市の中で活かしていくのか、ある程度行政にフォローしていただかなければいけないと思いますので、それも含めてご検討いただきたいと思います。

【事務局】

おっしゃられるように市民の活動がつながるように進めていきたいと思います。

【草薙委員】

まちづくり人養成講座で人材を育成するからには、その後にもフォローし、サポートし、動けるようにしていかないと意味がないと思います。私たちはシニアライフリーダーを養成しましたが、サポートしないとなかなか難しいのが現状です。そのため、講座をやる前から、どのようにどの場所で人材を活かすか考えておかなければならないと思います。

3. その他

(1) 第3回市民協働推進会議の日程について